

サンワ・リノテックがお届けするお得な記事満載の情報紙。 きっとお役に立ちます。

コーザー様訪問



株式会社 山口総研
代表取締役 山口 泰信様

今回は、防災や環境整備のコンサルタントでご活躍されている(株)山口総研の代表取締役山口泰信様にお越しいただきました。今年は未曾有の大惨事「東日本大震災」が起きて、改めて自然災害に対する防災意識の大切さを感じたからです。

司会「まずは、活動されている内容をお聞かせください」

山口「私は、3S・5S活動などの環境整備やデジタル文書管理、発明起業塾のコンサルタント。2009年に防災士の資格を取り、現在、企業や学校で防災研修を行っております。もちろん、被災地には毎月足を運び支援活動も行っております。阪神淡路大震災時の2,300名の避難所リーダーだった経験を基に避難所の運営方法を教えたり、被災地の教育委員会に文具などの支援をはじめ、被災自治体に軽トラック、扇風機、洗濯機などを仲間と支援したりしています。先月からは、経済産業省の事業の一環で、岩手県や宮城県の石油組合で緊急時の情報管理とBCPについての研修講師(全6回)、企業へのBCP策定支援をしております」

司会「企業への研修とは具体的にはどんな内容でしょうか？」

山口「まずは、サンワ・リノテック様も取り組んでおられる3SKグループでのBCP策定支援です。BCPとは、business continuity plan:事業継続計画のことです」

司会「BCPについてもう少し詳しくお聞かせください」

佐川「BCPについては、山口先生に指導いただいた私が説明します。BCPとは、テロや自然災害に対して企業が事業を継続していくために事前に作成する計画のことです。当社が所属する3SK(整理・整頓・清掃・危機管理を学ぶ)グループは、東日本大震災が起こる前の去年から計画し、今年1月から8月の完成に向けて4社合同でBCPの策定に取り組んでいました。それぞれ立地や社員数、業務内容が違いますから、立地に対するリスクを分析したり、何が会社の中で一番重要な業務なのかを話し合い、その業務を継続する為に何を準備するか話し合いました。一番最初に行ったのは、社員の命を守るための災害時の初動活動でした」

司会「なるほど、防災計画が市民の命とその財産への影響を最小限にするための計画なのに対して、BCPは、その後、企業が復興するための計画なんですね」

山口「簡単に言えばそういうことです。企業は人なりと言います」

山口泰信様プロフィール

防災士 日本防災士機構 NPO創活工房 災害支援プロジェクトマネージャー BCPコンサルタント・3SK活動コンサルタント 日本災害情報学会正会員・事業継続協会日本支部賛助会員 BCI英国本部賛助会員 発明起業塾大阪認定講師

から、社員に対しての防災教育が一番重要となります。なぜなら社員の防災意識が高まれば、社内だけでなく社員の家族の命も守れるからです。おっしゃるとおり、会社の資産をいかに守り、お客様に何を提供し続けるか?また、自社だけが復興するのではなく、同業や地域に対しての支援をどうするかも大切です」

佐川「当社は、災害時に必要になるマスクなどの消耗品に始まり、発電機などとても重要なモノを取り扱っております。災害時の役割が大きいことを再認識し、事業の継続が如何に大切かを社員全員で共有することができました。まずは、立地的なリスクについて山口先生から地震予測図と津波予想地図を見せて頂き、津波に対して3メートルを超えると被害を受けるところが分かりました。津波に対して何ができるか考えましたが、いまさら引越することもできないので、いち早くどこに逃げるか避難場所の候補を複数個所決め、施設に対しては1階がダメになっても2階で継続できるための仕組み、資材設備保管ヤードの中2階部分を増設することで、重要製品を確保する工事を完成させました。出費としては多額の費用がかかりましたが、防災だけではなくスペース確保や通路確保、作業効率の向上など思っていた以上の効果がありました」

山口「すばらしい取り組みですね。しかし、自然災害は想定外でやってくるので、中2階に上げたことで重要製品を津波から守れるかどうかわかりません。三陸地方では過去に40メートル超で標高50メートル地点まで津波が押し寄せた記録があります。さらに高知大学の調査で高知県にある2000年前の地層から、前回の南海地震の3~5倍もある津波層が発見されています。阪神淡路大震災は、2000年周期の地震でした。想定を如何に高くするかが問題ではなく、企業が社員の命を守り、継続することで雇用を守り、お客様への製品提供を続けるための計画を立て投資をする。その行為自体が重要なのです。そうした行動が社員一丸の命の防災教育につながるのです」

司会「お二人のお話でBCPの重要性は分かりました。では企業にとって具体的なメリットをあげて頂ければ、これからBCPに取り組まれる方にもわかりやすいかと思いますがいかがでしょうか？」

山口「メリットの前に義務をお話します。国が定めた企業の役割は以下の4つです。

- 生命の安全確保 ●二次災害の防止
- 事業の継続 ●地域貢献・地域との共生

司会「どれも重要なことですね。しかし、企業は利益を上げなければならないので、防災と利益追求への投資のバランスが重要となるのではないのでしょうか？」

山口「とても良い質問です。組織が危機に適切に対応した場合、その株価は長期的に値上がりするし、危機に適切に対応できなかった場合、会社の株価は下落し一年後でも回復できなかったケースもあります。最近の調査ではリスク、(裏面に続く)

(表面より) BCP、BCM及びガバナンスに予算をかける企業ほどそれぞれの部門で収益率が高いことが数字に現れており、BCPがコストではなく投資であることを物語っています。

海外からすると、日本の取引企業が災害に対してどのように取り組んでいるのか不安が高まっていますので、海外取引をしている企業さんには、今後BCPを要求されるケースが増える予想されます。要求される前に策定していることが重要です。完成していなくても、策定途中でも評価はあがると考えています。途中の段階でも提出することができれば取引先との協議につながりますし、信頼関係の維持はたかまります。この度の大規模災害を機にBCP導入に対する重要度が世界的に大きく変化することは間違いありません。利益を維持するためにも、事業継続計画は必須であると考えます」

佐川「同感です。弊社でも営業社員が3S活動やBCPへの取組をお客様にすることができ、営業そのものがしやすくなったことは事実です。また、会社の中での安全対策に対する認識が高まりました。転倒防止、落下防止、ヒヤリハットに対する意識が向上し、怪我も少なくなったようです」

司会「では、メリットとして自然災害時だけではなく、日常業務の安全面に対する取り組みにも効果があったことにくわえ、営業的にも効果があるということですか?」

佐川「いえ、できあがったばかりのBCPですから効果が確実にあがった訳ではありません。ただ、手応えは確実に感じていますので継続していくことが重要だと思います。今後は意識の継続について教えて頂きたいのですが…」

山口「はい。まずは次の3つを実行してください。

1. 継続したいことを優しい言葉で理解すること。
2. 社外の人に監査チェックしてもらうこと。
3. 毎年非常食を社員さん全員で食べて、防災の話をする事です。

だから非常食はカンパンでなく、もっとおいしいクッキーなどの方が良いでしょう。私のおススメはレトルト食品です。種類も豊富で味もおいしいですし、水も熱も調理器具もいりません。自宅に持ち帰っても喜ばれます。

まずはトップダウンでこれら3つを決める。次は、ボトムアップ的な推進ですが、【今地震が起きたらどうする?】を合言葉に高さ制限や積み重ね、棚からの飛出し、転倒防止対策、通路の確保を毎日の清掃活動と同じように朝礼で言うようにすることで。棒読みでもいいから毎日続けることが肝心です」

佐川「やはり地道に進めていくことなんですね。3S活動に似ていますね。私たちは3SKグループで進めています、それについてのご意見はございますか?」

山口「グループで進めるメリットは多いですね。今回、私の現地での復興経験を聞いていただき、毎月の3SK報告会の後、グループ一緒に勉強会を開いていただきました。4社でのBCP作成はお互い見せ合いっこして進めることができ、さらに中小企業庁が出しているフォーマットなどを使わずに、自分たちの分りやすい優しい言葉で必要な項目を洗い出し計画を立てられました。お互いの会社を避難場所にしたたり緊急連絡先にする

などが決まり、万一の時は別荘を使ってもいいとの申し入れもあつたりと、素晴らしい連携ぶりでした。さらに3SK報告会では、毎月会社見学を行い指摘し合うようになっていますから、監査チェックの役割もできあがっており、毎年2月と8月にBCPを見直すことも決まりました。これら一連のことが、継続する力となりますから、3SKグループでは間違いなく持続されていくと思います」

佐川「3SKの仲間(セトバルブ様・サンコー物産様・カンタス様)には感謝の気持ちでいっぱいです」

司会「とても素晴らしい進め方ですね。このような事例は他にもありますか?」

山口「最初が、サンワ・リノテック様が所属する3SKグループです。3.11より以前にBCP活動を開始していますからね。3.11以降では、私が支援しているお米の商社や歯車の会社、大阪の建設業、被災地の石油組合でもグループで勉強会を続けています。この風潮が高まれば、3SKのBチームができるのではないかと考えております。全国に3SKチームができ、地域をまたがったチーム間での支援ができることが理想です。もちろん、個別でBCPの策定支援も実施しております」

佐川「山口先生には全国で実績を積んでいただき、私たちのグループに最新の事例を教えていただけることを願っております。来年も継続的な支援を宜しくお願いします」

司会「今日は、中小企業にとってBCPや3SKが役に立つことが分かりました。私個人的にもすぐに防災リュックの用意をしようと思います」

山口「ただインターネットで気軽に防災リュックセットを注文するのではなく、是非、自分で家族で何が必要か考えてください。考えた経験が命を守るからです」

司会「おっと、ネットで簡単に買おうと思っていたところででした。おっしゃる通りですね。自分で何が必要か考えてみます。今日は本当に役に立ちました。皆様、有難うございました」

山口「こちらこそ、有難うございました」



編集後記

お忙しい合間を縫ってインタビューに快く応じていただいた山口様、有難うございました。

今回は、震災時何をすべきか3Sを交えわかりやすく説明頂き、瓦版ご愛読の皆様の危機管理に対して参考になることと確信しました。追記:当社は、平成23年11月25日付けでBCP策定企業として、中小企業庁に認められました。(寺嶋)

発行

作業現場の快適のために——
レンタル、販売から工事施工まで

Sanwa Renotech

サンワ・リノテック株式会社
www.sanwa-renotech.com

アスベスト サンワ で検索できます

〒551-0033 大阪市大正区北恩加島1丁目17番4号
TEL06(6551)0024 FAX06(6554)1057
東京営業所 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-16-2-702
TEL03(6912)8292 FAX03(6912)8293

(11.12.25T)